

「小中交流宿泊体験学習」

～教え学びあう人間関係づくり～

1 趣旨

小中交流宿泊体験におけるグループワーク等の体験活動や生活を通して、児童・生徒のコミュニケーション能力を育成し、中一ギャップの解消に貢献する。そのため、校区ごと募集し、教育委員会や現場の小中学校教員との連携を深め、青少年教育施設としての新たな面を探る。

2 ねらい

- ・児童・生徒が自分の意見をもってその意見を言う、相手の意見を聞く機会を多く体験させる。
- ・教育委員会や学校と打ち合わせの場をなるべく多く設け、円滑な運営につなげる。

3 日程

- (1) 期 日 第1回：平成24年11月13日（火）～14日（水）【1泊2日】
第2回：平成24年11月15日（木）～16日（金）【1泊2日】
- (2) 参加者 第1回：A中学1年生とその校区の小学6年生 75名 教員14名
第2回：B中学1年生とその校区の小学6年生 330名 教員30名

(3) 研修内容

1日目

- 14:00～14:20 入所式（講堂）
14:30～15:15 研修1：アイスブレイク（各研修室）
15:30～16:45 研修2：エクササイズ「人間コピー機」（各研修室）
17:00～17:15 イブニングタイム（体育館）
19:30～21:00 研修3：エクササイズ「新聞紙タワー」（体育館・講堂）

2日目

- 7:00～7:15 フレッシュタイム（体育館）
9:00～10:30 研修4：エクササイズ「トシくんのおつかい」（各教室）
10:50～11:40 研修5：ミニ運動会（体育館）
11:50～13:10 昼食・アンケート記入
13:20～13:40 退所式（講堂）

○ エクササイズについて

研修に取り入れたエクササイズは、ラボラトリー方式の教材を取り入れた。児童生徒のコミュニケーション能力の育成のため、「積極的に話す」「相手の話を聞く」「自分の考えを持ち、相手に伝える」というねらいで設定した。

4 成果と課題

(1) 参加者の満足度結果から

- ・ 事業後の参加者対象のアンケートにおいて、全体を通しての満足度として「満足」・「やや満足」と回答した参加者は、第1回目が100%、第2回目が96%であり、昨年度、一昨年度よりさらに高い数値となった。自由記述では、ほとんどの生徒が「とても楽しく、仲良く活動することができた。」と記していた。
- ・ エクササイズごとの満足度は、アイスブレイク91%、人間コピー機95%、新聞紙タワー94%、トシくんのおつかい95%、ミニ運動会が94%であった。どの活動も高い満足度を得ていた。
- ・ 小学生は中学生と、中学生は小学生と仲よくなれたかという質問では、小学生93%、中学生96%が「仲よくなれた」と感じていた。活動全体を通して協力することができたかという質問では、全体の98%が「協力することができた。」と感じていた。

(2) 児童生徒の感想

[小学生]

- ・ 中学生との合宿は初めてで、とてもドキドキしていたけど、面白い人ややさしい人などいろんな人がいて少し安心しました。同じ班の人たちは仲よくしてくれて、そしてリーダーシップもある人もいました。エクササイズで積極的に進めてくれたりしたので、とても話しやすかったです。私も中学生になったら、やさしく接することができるようになりたいと思いました。

[中学生]

- ・ どの活動も、グループの人と仲が良くなるような活動で良かったです。1日目の夜の活動の「新聞紙タワー」では、どうすれば高くなるかなどグループの人と考え、とても協力してできました。2日目の研修の「トシくんのおつかい」では、まず誰かがそのヒントを読み上げて、そのヒントに関連するヒントを持っている人が次に読むようにしました。どの研修でも、グループ全員が協力できました。しかも、小学生と仲よくなれた良い思い出になりました。

(3) 成果と課題

- ・ 小学生も中学生も各エクササイズでは積極的に意見を出し合い、しっかりコミュニケーションをとることができていた。第1回目、第2回目ともに、参加児童生徒から高い満足度が得られ、小中交流の目的は十分達成されたと考えられる。
- ・ 一部の中学生に落ち着きのなさが見られ、指導者の負担が大きかった。

人間コピー機



新聞紙タワー



トシくんのおつかい

